

まる市も継承している対話の文化



OMITAMAまる市

まえ かわ め い
前川 芽依さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ
No.213

群馬県高崎市で生まれ育ち、野生動物への興味から北海道の大学に進学。卒業後は茨城県で就職し、結婚してからカイロプラクティックの資格を取得。マルシェ「まる市」企画運営メンバーで小美玉市堅倉地区にお住まいの前川芽依さんにインタビューします。

着々と増える 小美玉の友人

子どもの頃から野生動物や食物連鎖に興味を持ち、北海道の酪農学園大学に入学。フィールドワークが多くて、ザリガニを捕まえて食べたり、森の中で動物を調査するためのトラップを仕掛けたりして過ごしました。卒業後、茨城県八千代町の種苗会社に就職。資材の配達先の農家さんは皆さん優しく、仕事も楽しかった、と前川さん。

みの〜れを初めて訪れたのは、2018年に開催された全国ヨークルトサミット in 小美玉の時。当時は下妻に住んでいて、「夫が『地元でこんなイベントがある』と言うので一緒に来ました。小美玉にはこんなにおしゃれなイベントがあるんだな、と感動しました」。

結婚後にカイロプラクティックの資格を取りました。先輩たちに応援してもらい、開業3年目になります。大学で学んだことや種苗会社で働いたこと、それらが今に繋がっているように感じています。

「まる市」企画運営メンバーになったのは、市企画調整課がJR羽鳥駅前で開催した「おみたまやってみるプロジェクト」に参加したのがきっかけ。その時のご縁で、みの〜れプロジェクトチームの1つとして新たに発足した「まる市」に加わったことで、「やっと地域の人と知り合いになれたと思いました。他市町村から移り住んだ主婦は友達を増やせる機会ってなかなかないですよ」。知り合いが増えて一気に小美玉暮らしが楽しくなりました。

先月、元職員の中本正樹さんが毎年茨城大学で授業をしている場に、まる市メン

バーとして同席。一番印象に残ったのは、親世代の青年団から受け継いだ「対話の文化」がみの〜れにしっかり根付き、他分野にもちゃんと広がっていること。「みの〜れに関わっているみんなが20数年かけて創りあげてきた、素晴らしい文化だと感じました。『まる市』にも確かに対話の文化を感じます。本音で話し合い、丁寧に合意形成しながら進めているのは、みの〜れ文化ですね」。

中学、高校とソフトボールをやっていた前川さん。美野里地区にある社会人のソフトボールチームに入部して、子育てや仕事をしながら月2回程度練習に参加しているそう。「日曜日も中学生と練習してきました。小美玉市で、着々と知り合いが広がっています」と笑顔。文化芸術やスポーツは、人々の関係性を深めてくれる効果がありますね。（藤田佐知子）